

「簡略英語」をアジアの共通言語に！

守（もり）誠

名古屋市立大学 22 世紀研究所副所長

名古屋市立大学特任教授

青井利道

名古屋市立大学 22 世紀研究所研究員

はじめに

これまで私(守)は各種の会合で、「簡略英語」について語りつづけ、また全国紙の朝日新聞や毎日新聞、それに地方紙の神戸新聞などでも何回となく簡略英語の必要性を唱えてきた。さらに、著書として『超話せる！守誠のゆるゆる・簡略英語』（明日香出版、2013 年）（本書の題名の意味は、『ドンドン話せる・守誠の文法にこだわらない・簡略英語』）を世に出した。

ここでの論述が、拙著（守）の中身とかなり重なる部分はあるが、今回は英訳をつけることによって、日本国内にとどまらず広く世界に簡略英語の必要性を訴えることが可能になった。

簡略英語の解説というよりは簡略英語を広める一種の普及活動の一環として私たち(守・青井)は、簡略英語の利便性とその意義について、新聞、雑誌、講演会、それに各種の雑談の場で意見を述べ、また書き続けてきた。

話しかけた相手側が常に諸手を挙げて賛同してくれたわけでは決してない。記事に対する厳しい反論もかなり浴びせられた。

「現在ある英語をわざわざ壊してまで、新しい英語を作る必要性がどこにあるのか、まったく理解できない！」

この種の厳しい否定的意見を口にする人たちも意外に多いことに驚かされたものである。

それでも日本人にとって今、アジアは身近で大きなビジネスの拠点であり、魅力的な観光地帯でもある。何十年もの間、私（守）は総合商社で働き、中途退職後は教職の世界で教育と研究（通商政策、知的財産権）にかかわってきた。

その間、日本人の英語によるコミュニケーションについても、大きな関心を払ってきた。正直、他のアジアの人々に比べると、日本人の英語によるコミュニケーション能力は、決して高いものではない。

最近、簡略英語を本気で、世界、特にアジアで広めたいという強い願望を抱くようになったのは、私たちが共にアジアを旅したときに体験した 1 つの小さ

な出来事があったからだ。

ベトナム第 1 の商業都市サイゴンの喫茶店の中で偶然耳にした英語が、簡略英語をアジアで流行させたいという私たちの気持ちに火をつけた。1 人のベトナム人と国籍は定かではなかったが東南アジア諸国のどこか 1 か国からやって来たと思しきビジネスマンの会話を偶然耳にしたからである。

もちろん耳をそばだてて会話の中身を密かに聞き出そうとしたわけではない。彼らは正々堂々と声を張り上げて、商談を続けていたから、結果として彼ら 2 人の使う英語が私たち 2 人の耳にも入り込んできたのであった。

今も彼らが口にした次の言葉は鮮明に記憶している。

I want meet you your office ten o' clock tomorrow morning OK?

学校で英語を少しかじった者であれば、上のような英語は使わないであろう。せめて次のレベルの英語ぐらいなら話せると思う。

**I want to meet you in your office at ten o' clock tomorrow morning.
OK?**

しかし、彼らの文法無視の前置詞を使わない英語でも理解できたのであるから、コミュニケーション主体の簡略英語でも十分理解しあえるのではないかと、少し勇気と自信が出てきた。

1. アジアの時代の到来

日本を代表する経済誌『週刊東洋経済』の臨時増刊号（2011 年 3 月 25 日付）の中で使われていた数字を見て、私たちは大きな衝撃を受けた。世界の英語の現状をこれ程、リアルに伝えてくれる資料はないと思ったからだ。

国際交流で何と 74 パーセントの人が「非英語圏」から「非英語圏」へ旅している。

この現実、世界では非ネイティブ間で英語が話されている比率が極めて高いことを意味している。

参考までに、残りの 26 パーセントの内訳は、次の通りだ。

（出所 “English Next 2006 written by David Graddol, British Council, 2006”）

英語圏から英語圏へ 4 パーセント
英語圏から非英語圏へ 12 パーセント
非英語圏から英語圏へ 10 パーセント

日本人の多くは、長い間、英語を話すときは「ネイティブのような英語を耳にして、それを真似して話すこと」を目標にすべきだと考えてきた。ところが、この考え方は、正しいとは言い難い。国際交流の現場は、英語のネイティブ・スピーカーでない人たちの間で行われる方が圧倒的に多いことを示している。

経済的な視点からも、同じことが言えるであろう。

紆余曲折はあるものの世界経済はいま、米欧中心からアジアに重点を置く時代へと大きく変わろうとしている。

OECD (Organization for Economic Cooperation and Development 経済協力開発機構) は 2060 年における主要国の名目 GDP (国内総生産、2005 年の「購買力平価ベースに基づく) について、次のような推計値を発表している。

世界の GDP シェア率の変化(小数点以下 四捨五入)

[出所]

”Looking to 2060: Long-term growth prospect for the world” (OECD 2012)

中国	28 パーセント
インド	18 パーセント
米国	16 パーセント
ユーロ圏	9 パーセント
日本	3 パーセント
その他	26 パーセント

もちろん紆余曲折はあるにせよ世界経済の中心は確実に、米欧からアジアに移行しつつあることを示している。

以上の数字からも明らかなように、時代は「アジアの世紀」に突入した。つまり好むと好まざるとにかかわらず、米欧中心の時代から、アジアに重点を置く時代がやって来たことを意味している。

アジアで使われる英語も当然、ネイティブの英語とは異なったものになるであろう。

＜まとめ＞

本当に求められているのは、非ネイティブ同士が意思の疎通をはかるために必要な道具としての言語である。ここに、私たち(守、青井)が推奨する「簡略英語」の活躍の場があるはずだ。

2. 英語が話せるレベルは「通じればよい」

これまで何度となくアジアを旅してきた私たちは、非ネイティブの英語を山ほど耳にすることができた。一口にアジア英語といっても様々な英語があり、日本人にも意外に分かりにくい英語も多い。アジア英語の辞典が日本でも出版されているぐらいであるから、アジア英語であるなら何でも分かりやすいとは限らない。

インド英語のように極端に強張った発音を聞かされると、最初は頭にガンガン響いて、理解しづらいこともあった。

しかし、日本人が典型的な日本式発音で英語を話しても、相手はその日本式英語が＜変な英語＞であるとは、それほど思わない。たがいにネイティブの英語とは明らかに異なる英語を話している同じアジアの人間だと考えるからであろう。

この気楽さが、文法を少しぐらい間違えても、コミュニケーションは成り立つものだという雰囲気や自然に醸し出している。こうしたアジア人同士の英語による会話は、ストレスのない気楽さを感じさせるものだ。

圧倒的多数の日本人は英語を話せない。話せたといっても決してレベルの高いものではない。これまでは国内にいる限り、英語を使わなくても生活できたからである。ところが、時代はそのような＜のんきな考え方＞を許してはくれない。

製造業はもちろんのこと、流通業もその他のサービス産業も、アジアに出て行かないと食べていけない時代になった。これまで英語とは無縁の会社にいたつもりが、親会社や取引先の都合で自分たちもアジアに出て行かなければ仕事なくなる恐れが生まれてきたからだ。

一方で、退職金が入ったから念願の海外旅行に行きたいが、少し英語でもやっておこうかと考える人たちもいる。無理をしてまで完璧な英語を勉強する必要はないものの、忘れた英語を少しでも取り戻すべく、いかに勉強したらよいものかと悩んでいる人も結構おられる。

<まとめ>

このような人たちに向けて、あまり文法にこだわらないコミュニケーション主体の「簡略英語」をおすすめしたいのである。

3. 「簡略英語」とはどんな英語か

[名称]

- ① 「簡略英語」は英語で

Kan-Ryaku English

- ② 日本語を全く知らない外国人のために英語では、

Simple and Revised <New English>

- ③ 最終的には、日本人も外国人も単純に

Kan-Ryaku

で、世界的に通用する言語にしたい。

[性質]

Kan-Ryaku は、既存の英語をベースにしながらも、地球上のすべての人々が理解できるように、思い切って平易な英語に改良したものである。

Kan-Ryaku はコミュニケーションを主体にした改良英語だ。従って、思索的なあるいは文学的な表現を求める手段としては、現段階では必ずしも適切な言語ではない。今後も改良の余地は十分にあるだろう。スタートを切った段階なので、今後、時間をかけて、より質が高くわかりやすい簡略英語(**Kan-Ryaku**)を作り上げて行きたいものだ。

[改良点]

Kan-Ryaku は、これまで世界で使われている英語と異なり、

- ① むずかしい単語はできるだけ避ける。
- ② 熟語は原則として使わない。
- ③ 難しい文章は避ける。
- ④ 文法で難しいものは捨てるか、人工的にやさしくする。
- ⑤ 従来の文法の規制が強すぎて、なかなか簡略化できない場合があるとしたら、現時点ではそのまま使うしかない。
- ⑥ しかし、時間をかけて簡略化に向けた努力はつづけたい。

[最低条件]

Kan-Ryaku は文法をかなり曲げるが、どんなに簡略化しても、ネイティブが何とか理解できる範囲内にとどめたい。

[使用単語]

Kan-Ryaku の基礎単語は 1,500 語とする。知恵を絞れば、一見、少ないようだが国際的に意思の疎通が可能な語数ではある。この 1500 語の枠はできるだけ順守したいが、中身の単語は多くの人びとの知恵を借りて、少しずつ入れ換えた

4. 絞り込めるものは断固、絞り込む

4-1 動詞はすべて規則変化に

動詞がすべて規則変化であれば、世界中の英語嫌いも必ずや半減するであろう。

例えば、open (開ける) は、日常生活の中でよく出てくる単語で、規則変化する。この過去と過去分詞は現在形のお尻に-ed をつけるだけで OK だ。従って

現在	過去	過去分詞
open	opened	opened

同様に、play(遊ぶ)もよく出てくるやさしい動詞である。

現在	過去	過去分詞
play	played	played

これらの動詞は、英語を習い始めれば直ぐに出てくるお馴染みのやさしい動詞だ。この過去、過去分詞は、私（守）の中学時代、顔をしかめて「嫌だな」という気にはならなかった。すんなりと頭に入ってきたものだ。

ところが次の単語の過去、過去分詞を覚えろといわれたときは、正直、一瞬、顔をしかめたものである。

teach(教える)

の過去と過去分詞だ。

この単語は過去と過去分詞になった途端に大きく変わる動詞の一つだった。

現在	過去	過去分詞
teach	taught	taught

英語のアルファベットの文字や音声さえ異分子に見えてしまう中学生にとっては、この動詞の変化はとても簡単には受け入れられるものではなかった。

私（守）が中学生の時、教室の中で聞こえてきた典型的な言葉は今も忘れず、鮮明に記憶している。

「覚える気がしない」

「こんな単語 2 度と見たくもない」

「なぜ、t の後の au を『オー』と発音し、gh は発音しないのだろうか？考えただけでイヤになる！」

クラスの半分近くの生徒が、同じく

see saw seen

の不規則変化に直面すると英語嫌いになっていったものだ。おそらく今でも中学における英語の授業の現場では、事情はそれほど大きく変わっているとは思えないのだが。

もっとも少し英語をやって、英語の匂いが嗅げるようになると、動詞の不規則変化に違和感は覚えなくなる。しかし、多くの動詞の過去、過去分詞の不規則変化を英語の習いはじめに浴びせられると事情は少し違ってくる。

stand (立つ)	stood	stood
sleep (眠る)	slept	slept
run (走る)	ran	run
find (発見する)	found	found
grow (成長する)	grew	grown
fly (飛ぶ)	flew	flown

上記の単語は中学時代に教科書に登場する代表的な不規則変化である。多くの中学生は皆、今日も苦勞して暗記させられている。

これを **Kan-Ryaku** では思い切って、すべての動詞の過去、過去分詞のお尻に -ed をつけて簡略化するのであるから、一見、無謀な試みに映るかもしれない。

しかし、何度も唱えながら、**Kan-Ryaku** のリズムにのると、それほど違和感を覚えなくなるから不思議である。一種の自己催眠のような心理作用が働くのかも知れない。では、**Kan-Ryaku** のリズムに乗って、何度もお経を唱えるように繰り返し、繰り返し唱えてみよう。

stand standed standed

sleep sleeped sleeped

run runed runed (**Kan-Ryaku** では詰まっても runned にしない)

find finded finded

grow growed growed

fly flyed flyed (**Kan-Ryaku** では flied にしない)

例えば、 **彼女は 3 時間眠った。**

She slept for three hours.

これを、**Kan-Ryaku** では

She sleeped for three hours.

私の息子は昨年、2 センチ背が伸びた。

My son grew 2 cm last year.

これを、**Kan-Ryaku** では、

My son growed 2 cm last year.

以上のように、簡略英語では動詞は変化せず、すべて動詞の現在形のお尻に -ed を付けて一律に処理すればよい。

現在、過去、過去分詞の不規則変化を完全に無視するわけだ。不規則変化するから、英語に深みが出てくると主張する人もいるが、より多くの人々に英語によるコミュニケーションを可能にさせるためには、少々の荒行を実行に移すことも重要かも知れない。

<まとめ>

要するに動詞の過去、過去分詞はすべてその語尾に-edを付ければよい。このことは Kan-Ryaku では、動詞はすべて規則変化させることだ。動詞の不規則変化は消滅させる。

4-2 複数形はすべて語尾に -s か -es を付ける

desk	→	desks
star	→	stars
cup	→	cups
house	→	houses
dog	→	dogs
friend	→	friends
glass	→	glasses
beach	→	beaches

以上のように名詞を列挙すると、「名詞の複数形を作るにはお尻に-s か -es をつければ成り立つんだな」と早合点しそうになる。ところが英語には文法がへばりついてくる。そして、警告を受ける。

「英語の文法をなめてかかると、とんでもない火傷をするよ」と驚かされる。

例えば、1つ2つと数えられないものはどうするのか？

「水 (water)」には、量が増えれば < s > がつくのですか」
なかなか鋭い質問である。一般に「水 (water)」には [-s] が付かない。waters
にはならない。もっとも「水域」という意味として使う場合には waters と s を
付けるが。

「では、次の場合はどうなるのか？ コップ一杯の水、コップ 2 杯の水は？」

「答えは簡単さ」

a cup of water

two cups of water

では wine だったらどうなるか。

a glass of wine (グラス 1 杯のワイン)

two glasses of wine (グラス 2 杯のワイン)

となる。

ところが、**Kan-Ryaku** では、数えられるものでも、数えられないものでも、「多
い」とか「たくさん」という意味の時には、すべての名詞のお尻に s か -es をつ
け、「多い」は many 1 本に絞る。much は使わない。

「たくさん水」は正規の英語では much water だが、**Kan-Ryaku** では **many
waters**, 「たくさんワイン」は **many wines** になる」

日常的によく出てくる言葉として、

情報 information

家具 furniture

が、登場する。

これらが

「たくさん情報」

「たくさん家具」

になった場合、いくつかの表現の仕方はあるもののよく使うものとしては

much information
many articles of furniture

になる。共に、語尾に-s、-es はつかない。

英文法に沿った表現をあれこれ考えると、ややっこしくなり頭が混乱する。そこは **Kan-Ryaku** のいいところで、「多い」を意味する場合、much は使わず、many1 本槍で行く。そして、information, furniture のお尻には、複数個をイメージする場合、これまでの文法とは関係なく-s を必ず付ける。

many informations
many furnitures

になる。

<まとめ>

Kan-Ryaku では、「多い」は、すべて many1 本で行く。much は使わない。名詞の語尾も「多い」とくれば、これまでの文法は全く無視して、すべて複数を表す-s か -es を付ければよい。

4-3 疑問文は正常文の語尾を押し上げて発音する

疑問文は、正常文の最終語の語尾を押し上げて発音する (↑) ことによって作る。

これまでの疑問文の作り方は捨てる。

これまでの文法に従えば、

You are a student. (あなたは学生である)

これを疑問文にする場合は

Are you a student? となるが、

Kan-Ryaku では、

You are a student? (↑)

と普通文のまま、語尾を押し上げて発音することで、疑問文の代用をする。

さらに、**Kan-Ryaku** では a を使わないので

You are student ? (↑)

これで OK だ。

「断っておくが、(↑) は文章の最後の言葉の尾っぽを上げて発音して下さい」という意味で、文章表現としては、

You are student?

で、OK だ。

少し、**Kan-Ryaku** の表現に慣れるために 2 例追加してみたい。

(通常文) You are a musician.

(簡略英語文) You are musician.

(簡略疑問文) **You are musician ?**

(通常文) You are a pianist.

(簡略英語文) You are pianist.

(簡略疑問文) **You are pianist ?**

<まとめ>

別に簡略英語とわざわざうたわなくても、会話の場合、知らず知らずの間に、a を除き、簡略疑問文で済ませている場合が案外多い。

4-4 「～すべきである」は must1 語に絞る

「～すべきだ」「～しなければいけない」

と「強制」の意味を持った表現は、日本文でも英文でも頻繁に使われ、様々な言い方がある。

ニュアンスの違いはあっても、いま私の頭に浮かぶものを順不同に挙げてみると次のようになる。

must

have to (has to)

need to

be obliged to

be to

should

ought to

be forced to

had better

これらの中から、気になる四つの単語ないし熟語を選んで「強制」の意味が強い順に並べてみると(「プログレッシブ英和中辞典」参考)、

must > had better > should, ought to

これらの中から、簡略化の趣旨に沿って 1 語だけ選ぶとなると、比較的誰でも知っている **must** ということになるだろう。

複雑なニュアンスの違いは顔の表情や身振り手振りで伝えればいい。

参考までに、2 例挙げておきたい。

- James will have to meet her tomorrow.
(ジェイムズは明日、彼女と会わねばならないであろう)
Kan-Ryaku では、**James must meet her tomorrow.**
——**Kan-Ryaku** では、will は使用しない。5-4 で説明する。
- You ought to study English more.
(君はもっと英語を勉強しなければいけない)
Kan-Ryaku では、**You must study English more.**

<まとめ>

「~すべきである」の対訳としては、ほとんど無意識に **must** を持って来ることが多い。ときには **should** を好む人もいるが、でも、やはり **must** が頻度の上では、断トツの1位を占める。従って、「~すべきである」は **must** 1 本に絞る。

4-5 比較級「〇〇より~だ」は、すべて **more~than〇〇** の形式

1 本に絞る

中学校時代、英語の科目は私(守)が最も得意とするものだった。でも比較級を教えてもらった時は頭が混乱し、パニック状態に陥った。

比較級には 2 通りの形があり、その使い分けに頭を悩まされたからだ。

その一つは下記の形式をとっている。

This book is more interesting than my textbook.

(この本は私の教科書より面白い)

ところが、tall (背が高い) のように1つの単語の中に母音が1つしかないものは、more tall にならず、tall 自体の尾っぽに-er を付けて、taller にする。more ~than○○の形式が適用できない。

John is taller than Jane.
(ジョンはジェーンより背が高い)

中学生だった私 (守) は、当初、比較級には more~than の一つの形式しかないものと勝手に思い込んでいた。中学の英語の先生も生徒に英語は複雑なものだと感じさせないように、授業では同じ日に、上の形式の比較級しか教えてくれなかった。その時、私は比較級には more ~than の 1本しかないものと勝手に思い込んでしまったのである。

ところが、次の授業の時、more ~ than にならない比較級もあることを教えられ、「ああ、面倒臭い！」と嘆いたものである。どうしてわざわざ複雑にするのかと独り言をぶつぶつ言っていたのを思い出す。私 (守) は自分が気に入らないと世の中できちんと決まっていることであっても直ぐ反発する変わった子供であった。典型的な天邪鬼であったようだ。その自分の中に潜んでいた悪戯っぽく反抗する気持ちが、後年、**Kan-Ryaku** という新しい英語を作る原動力になっていったのかも知れない。

そこで、**Kan-Ryaku** では、比較級は

John is more tall than Jane.

となる。

以上のように比較級の場合は、**more ~than** の形式1本に絞ってしまえば、現在の複雑な文法体系から出来上がった英語もやさしく覚えやすい言語に代わって行くかも知れない。

次に、**Kan-Ryaku** に慣れていただくために、例題を二つ挙げてみたい。

●**He is younger than her. (彼は彼女より若い)**

これを Kan-Ryaku では、
He is more young than her.

- She is faster than me. (彼女は私よりは足が速い)

これを Kan-Ryaku では

She is more fast than me.

では、最上級の場合にはどんな使い方になるのか？

Kan-Ryaku では最上級は most + 形容詞 と、いたってシンプルだ。

- He is the tallest in the village. (彼は村の中で一番背が高い)

⇒ He is most tall in village.

Kan-Ryaku では the は使わない。

- She is the tallest of the ten . (彼女は10人の中では一番背が高い)

⇒ She is most tall of ten.

Kan-Ryaku では the は使わない。

<まとめ>

比較級、最上級の話が英語の授業の中に入り込むようになると、感覚的に英語を受け付けられない者が現れ始める。この時期、英語の先生がいかにかに生徒を魅了する上手な教え方をするかどうかで、「英語得意人間」か「英語嫌悪人間」かのどちらかのタイプの生徒を生み出して行くことになる。

多分、私(守)が英語を好きになったのは、生徒の微妙な心理を見抜くいい先生に恵まれたからであろう。人生とはいかに幸運に恵まれるかによって決まってくるようだ。

4-6 語尾が -er, or, ar の単語は、すべて -er に統一する

長年、英語と付き合ってきたが、単語の語尾が -er か or か ar か、ときどき少し不安になり、辞書で確かめることがある。正直、何十年も英語と付き合い、世界 50 か国余りの国々に足を運び、その 90 パーセント以上の国々では英語を使ってきた。

文書作成の必要上、手書きする必要があるときなど綴りに気を使い、一瞬、綴りでどっちかなと首をかしげることもあった。

-er か -or か -ar か、自分では知っているつもりでも、体調がすぐれず、精神的に落ち込んでいたりすると、知っているはずの綴りに自信が持てなくなり、

ついつい首を傾げてしまうことがあった (守)。

例えば、teacher (先生)、doctor (医者)、scholar (学者) などは、語尾が -er, -or, -ar のどれが正しいのか迷ってしまう人が結構いるようだ。会話のときには気にならないが、いざ英文を書く段になると、正確なお尻の綴りも要求されるから頭の痛いところである。

「だから、Kan-Ryaku では、お尻は全部-er に統一します」

私 (守) はよく、そう言い続けてきた。友人や知人は、この私の考えに反対する者の方が多かった。

反対者の代表格の意見は、

「言語には多様な変化がある。また、例外も案外多い。だから奥行きがあり、それぞれの言語に輝きや艶のようなものが醸し出されるのだ。その結果、会話を豊かにし、人生を素敵に時間にかえて行くことになる。何でもかんでも簡単にすれば、それでいいというものではない」

これに対して私 (守) は反論するのであった。

「時代は急速に変化しているんですよ。変化について行けない人は、これからの時代に生き残ることは難しくなります」

どっちの意見が正論なのか、にわかには判定がしづらいと思う。そこで、一つ提案したいことがある。

次の設問に全問正解された方が、挑戦者の中で多かったら、私の提案はしぼんでしまう危険性を孕んでいる。挑戦者が間違いを犯すなら、私の主張に少し分があるように感じられる。

では、次の設問にぜひ挑戦していただきたい。

＜問題＞

カッコの中に、[e] [o] [a] いずれか適切なアルファベットを入れて下さい。

- | | |
|---------------|--------|
| ① teach□r | 先生 |
| ② calculat□r | 計算機 |
| ③ begg□r | ものもらい |
| ④ announc□r | アナウンサー |
| ⑤ calend□r | カレンダー |
| ⑥ conduct□r | 指揮者 |
| ⑦ distribut□r | 配給業者 |
| ⑧ emper□r | 皇帝 |
| ⑨ elevat□r | エレベーター |
| ⑩ perform□r | 役者 |

- | | |
|----------------|-------|
| ⑪ ambassad□r | 大使 |
| ⑫ spons□r | 番組提供者 |
| ⑬ carpent□r | 大工 |
| ⑭ tut□r | 家庭教師 |
| ⑮ invad□r | 侵入者 |
| ⑯ conquer□r | 征服者 |
| ⑰ invent□r | 発明家 |
| ⑱ compos□r | 作曲家 |
| ⑲ support□r | 支持者 |
| ⑳ refrigerat□r | 冷蔵庫 |

《 答え 》

- ①e ②o ③a ④e ⑤a ⑥o ⑦o ⑧o ⑨o ⑩e
⑪o ⑫o ⑬e ⑭o ⑮e ⑯o ⑰o ⑱e ⑳o

＜まとめ＞

正直、上記の問題で解答を書き込むには相当の自信と実力が試される。正直、全部正解を求められると、胸が苦しくなる。従って、私たちが提唱する Kan-Ryaku では、語尾はすべて -er に統一すれば、肩の荷は下りる。簡略の思想が最もわかりやすく生かされる。

4-7 同意語の訳語は1つに絞る！

日常生活で私たちは知らず知らずのうちに「たぶん」という言葉を頻繁に使っていると思う。この「たぶん」に相当する言葉はいくつかある。いずれも極めてポピュラーなものばかりだ。思いつくまま書いてみると「おそらく」「だいたい」「ひょっとしたら」「絶対とは言えないが」、「まあ……」探せば、まだまだあるだろう。

英語では、次の4つがポピュラーだ。

maybe possibly perhaps probably

『プロシード英和辞典』福武書店（1988 年度版）には、「確度を表す語」として次の単語を挙げている。

確実に	certainly
絶対に	absolutely, necessarily
たぶん、おそらく	probably
ことによると	perhaps, maybe
ひょっとすると	possibly
全然～でない	never

これらの中で、「たぶん」「おそらく」にあたる部分を取り出すと次のような式が成り立つ。

probably > perhaps = maybe > possibly

probably…… 「たぶん」という訳語がついているが、中身は「十中八九」と確率は断トツに高い。であれば「たぶん」から除いた方が、むしろましだという意見も出てこよう。

possibly…… 「ひょっとすると」ゼロではないが、限りなくゼロに近い。いかにも可能性が少ない。なさ過ぎる印象さえ受ける。従って除いた方が無難のようだ。

perhaps = maybe……

両者が同じレベルで「たぶん」を言い表すのなら、発音しやすく、まろやかな感じのする maybe を「たぶん」「おそらく」を代表する語として採用したいものだ。

<まとめ>

「たぶん」の訳語としては、発音しやすく、まろやかな雰囲気を持つ maybe を Kan-Ryaku の世界に入れたい。

5. 省けるものは断固、省く

5-1 3 人称単数現在の [s] [-es] は使わない

中学校で習い始める英語の授業の中で、まず、中学 1 年生が大きなパンチを食らわされるのは、3 人称、単数、現在の動詞のお尻に付ける[-(e)s]だ。だか

ら **kan-Ryaku** では、こんなややっこしい[-(e)s]は使わない。排除してしまう。

私（守）が中学 1 年生の英語の時間に経験した先生と 1 人の生徒とのやり取りを紹介したいと思う。1 人の生徒が突然、手を挙げた。

生徒「質問していいですか？先生！」

先生「何だね？構わないよ」

生徒「あの……。」

She speaks English very well. (彼女は英語をたいへん上手に話します) と、
You speak English very well. (あなたは英語をたいへん上手に話します)

の二つの文章を比較しますと、一見、違いは極めて小さいように見えますが、私にはとても大きな違いがあるように思うのです。前の文章は She speaks と speak の後に s が付き、後の文章は You speak と speak の後に-s がついていません。この違いには特別な意味があるのですか？」

この質問に、クラスの中は半ば騒然とした。

「なぜ？」

「どうして？」

どの生徒も腑に落ちないのか首を傾げて先生の回答を待っているようであった。

先生が何と答えていいのか、とっさに適当な回答を探し出せず困った顔をしたのを私（守）は今でもはっきりと覚えている。

この何気ない質問は、先生にとってショックのようであった。先生は突然イライラしてきて、荒っぽく次のように答えたのを、今でもはっきりと記憶している。

先生：「理屈っていうものはないんだ。要するにだ、he, she, it の 3 人称単数の後にくる動詞の現在形の語尾には-s が付くんだよ！」

生徒：「僕も先生の言われるように覚えますが、でも、何故そうなのか理由を説明して下さい」

先生：「理屈なんか無い！朝の挨拶は英語でグッド・モーニング (Good morning!) というだろう。それをグッド・ナイト (Good night!) とは言わない。要するにだ、3 人称単数現在の場合には、動詞の語尾に-s が付くんだよ」

生徒「それは分かるんですが、理由が知りたいんです！」

先生「言葉というものはだ、ときには理屈なしで、そう覚えるんだよ！！」

この生徒と先生のやり取りがあったあと、問題提起したその生徒は、以後、絶対に質問をしなくなり、まずいことに予習も宿題もまったくしなくなってしまう。

実は、私（守）も同じような疑問を持ったまま中学、高校、大学時代を過ごし、社会人になって初めて、偶然、購入した講談社現代新書の中尾俊夫著『英語の歴史』の中に答えを見つけたのである。おそらく、この問題をすっきり説明できる英語の先生は日本には、ほとんどいないと思うので、中尾先生の説明を著書の中から引用して紹介したいと思う。

北方方言起源の3単現 s

(he) walks「歩く」、(he) goes「行く」のように現在では3人称単数のみが活用する。この-(es)は10世紀にさかのぼるが、突然北方方言に現れた。どこから来たのか素性がよくわからない。-(es)は正当な接辞-(e)thと争いながら英語期中ゆっくり南下した。14世紀後半のチョウサーは自分の作品にはほとんど使っていないが、「執事の話」の中で北方方言を再現するために他の特徴と共に例外的にこの接辞を使っている。一般化するのには16世紀後半のことである。しかしこの頃でもまだ-(e)thはとくに文語文で好んで用いられている。

(中尾俊夫著『英語の歴史』講談社現代新書 1989年 157頁)

私（守）は英文学者ではないが、個人的に言語に関わる事柄に大きな関心を常に持ちつづけてきた人間の1人である。この中尾氏の説明を読んで、「この程度の-(es)なら」**Kan-Ryaku** では取り除いてしまえと、削除に大鉈を振るうことにした次第である。

では、簡略英語の例文を二つ挙げてみよう。

Tom studies Japanese every day. (トムは日本語を毎日勉強しています)

⇒ **[簡略文] Tom study Japanese every day.**

Mike goes to work by bike. (マイクは自転車通勤をしています)

⇒ **[簡略文] Mike go to work by bike.**

<まとめ>

要するに、Kan-Ryaku では、3 単現の動詞の語尾につく [-s] [-es] は取り除き、
He speak English very well. で OK だ！

5-2 不定冠詞の a は使わない

「こんな文字見たことないな」

「どこの国の文字なのかな？」

「英語の N の斜めの線が反対側から下に降りている！？」

「そういえば守君は商社時代、長いことモスクワ駐在員をやっていたな。モスクワとくればロシア文字っていうことになるのか」

久しぶりに会った友人に書きかけの原稿を見せたときの感想である。こちらは機会があれば簡略英語の宣伝を心がけていたので、まずは新しい言語の **Kan-Ryaku** の宣伝に及んだのである。よほど親しくないと、人によっては嫌な顔をされるので、慎重に、相手の顔色をみながら、なかば恐る恐る簡略英語の宣伝に努めているときのことであった。

「いまのロシアのことは新聞や TV である程度のことは知っているが、ロシア文字までは考えが及ばないよ」

こんな会話が成り立てば、「しめしめ」である。

あまり好まれないだろうが **Kan-Ryaku** にふれても、それほど嫌がれることはないだろうと勝手に想像して、ロシア文字の講釈を私は始めた。

商社にいたとき、ロシア語が全く話せない、いやいやロシア語に関する一切の知識もないまま、ソ連駐在を申し出て、すんなり上司の OK を取ってしまった。

「守君は語学が得意だから、ソ連に行けばすぐロシア語を覚えるだろう」

こんなきわめて大雑把な判断で、本当にモスクワ駐在員にしてもらった。

結局、モスクワ駐在を言われてから直ぐ、行くことになったから、ロシア語はモスクワで仕事をしながら覚えるというサーカスマがいの怪しい言語の手品師に化けて仕事をこなしていた。

で、肝心のロシア文字の話だが、これが実は **Kan-Ryaku** に結びついていくので、まるで謎解きのようだ。

これらのロシア文字で書いた文章を英語に直訳すると、次のようになる。

Это	книга.	This	book.
Эта	комната.	This	room.
Это	стол.	This	desk.
Это	стул.	This	chair.

上に並べた英語にはピリオドはあるが、is もなければ、a も存在せず、スペースが少しあるだけで、実に不安定な何かよく理解しにくいロシア語の神秘の世界が繰り広げられる。

英語の be に相当する is がなくても、また a がなくても、ロシア語の文章は成り立っているのだということを思い知らされた。

この想像を絶するような言語体験が私になかったら、**Kan-Ryaku** に対する自信は持ちえなかったと思う。be 動詞の is まで一気に除くとは言わない。従って、

This is a book. (これは一冊の本である)
This is a room. (これは部屋である)
This is a desk. (これは机である)
This is a chair. (これは椅子である)

これらの文章は **Kan-Ryaku** では、a を取って、次のようになる。

This is book.
This is room.
This is desk.
This is chair.

本来、a があってほしいところに、その a がない。それでもロシア語の発想からすればまだ許される。

Kan-Ryaku は想像力の翼を広げれば、他の言語、例えば、ここで紹介したロシア語の世界とも結びつく実に潜在力のある言語にもなりうるのである。

<まとめ>

**a がなくても、the がなくても、そう is がなくても言葉というものは存在しえるのだ！
素敵な発見に「バンザイ！」。**

5-3 Kan-Ryaku では the は使わない！

これまでの英語の常識に従うと、**楽器の頭には the を必ず付ける。**

play the piano

play the violin

play the guitar

一方、スポーツの各種目の頭には the はつかない。

play baseball

play soccer

play volleyball

こんなややっこしい the の使い方なら、いっそのこと

Kan-Ryaku ではすべての場合に<<the なし>>で行こう。

でも、中学校の英語の先生方は、この the の使い方を試験に出して、英語の出来具合をチェックする。確かに、これまでの英語のルールに従うならば、生徒や学生に正しい英文法を身に着けさせる便法の一つとして、the の使い方は重要かも知れない。いくら私が抵抗しても、既存の英文法の壁の前には、どうすることもできない。

でも、今回、**Kan-Ryaku** という考え方を生み出し、これを少しでも世界に広め、**Kan-Ryaku** の支持層の増加を期待している最中だ。

要するに、<the なし>は「省け！省け！」を唱える **Kan-Ryaku** の思想にぴったりにある。

<まとめ>

ともあれ、この the の問題は 3 人称単数現在の -s ないし -es と同じように、英語嫌いを果てしなく生み出してきた凶器の一つでありつづけた。中学時代に英語嫌いになり後年、仕事や海外旅行で英語を必要とし、さてどうすべきかと、かつての英語嫌いの少年少女たちは成人したいま英語との戦いに頭を痛めている。でも Kan-Ryaku の「the なし」の発想は、きっと受け入れてもらえるものと思う。

5-4 Kan-Ryaku では未来形の will は使わない

未来形の will は中学英語の中でも、何となく明るい感じのする単語ではあるが、**Kan-Ryaku** では非情かも知れないが使用しない。

「私たちは来年、ワシントンに行く予定です」

中学校で正式に習う英語なら、未来形を作るには先ず will を持ってきて、その次に動詞の go が続く。

We will go to Washington next year.

ところが、〈近未来の場合には〉、正規の英語でも will は使わず動詞の現在形をそのまま使用することもある。その結果、

We go to Washington next year.

と、will を除いて極めてシンプルな表現も許されることがある。

結果として、実際に使われる英語と **Kan-Ryaku** とがたまたま一致してしまうケースだ。

でも中学校で習う英語では、基礎をきちんと押さえる意味で文法に厳しくなる。その結果、型どおりに近未来でも、「未来」に関われば will は絶対使うように説明されるだろう。また、そのような説明がうまく行くような例文を使うのではないか。

<まとめ>

でも **Kan-Ryaku** では will は使わない。とにかく簡略化することを最優先させるのだから。

5-5 Kan-Ryaku では、現在完了は使わない

現在完了は「have + 過去分詞」の形式をとる。しかし、**Kan-Ryaku** では普通の過去形ですませる。中学校で学習する文法では、現在完了は

have + 過去分詞

で構成される。しかし、中学生の仲間たちの間では、過去に経験したことがない全く新しい用法なので、戸惑いを覚える者が続出した。

現在完了には大きく分けて 4 つのケースが考えられる。

① 経験 ② 継続 ③ 完了 ④ 結果

以上の 4 つのパターンを、これまでの文法で書いた英文と **Kan-Ryaku** で書いた英文とを読み比べていただきたい。

① 経験

I have been to London.

(私はロンドンに行ったことがある)

② 継続

I have lived in Kyoto for five years.

(私は京都に 5 年住んでいる)

③ 完了

I have just finished my work.

(私はちょうど仕事を終えたところだ)

④ 結果

I have lost my wallet.

(私は財布をなくした[その結果、いま手元にはない])

以上を **Kan-Ryaku** で表現すると、have + 動詞の過去完了の形が消滅し、**すべて過去形で済ませることになる。**

① I goed to London before.

Kan-Ryaku では、過去形で済ませる。go は本来不規則変化で、

go went gone だが、

Kan-Ryaku では、すべての動詞は規則変化で、お尻に-ed を付けるだけだ。

go goed goed となる。従って、

I goed to London. となるわけだ。

少しでも行った「経験」があることを示すために、before を入れてみた。しかし、簡略化を徹底する意味ではこの before も取っても構わない。

② I lived in Yokohama for eight years.

Kan-Ryaku では、have を取り除き、過去形の lived で済ませる。コミュニケーションには全く問題がない。どうしても「何か足りない」と言

われるようなら、最後に now を追加すればいい。現在完了という文法的な概念なしで成り立つコミュニケーションを作り上げたい。

③ **We finished our work now.**

ここでも **Kan-Ryaku** では、have を取り除く。「いま、仕事を終えたよ」という感じは十分だせる。でもよく考えてみると、**finished は過去形で、now は現在形を表現する語だ。従来からの英文法では絶対に相容れないが、これこそが Kan-Ryaku の持ち味だ。要するに、伝わることが大事だから。**

④ **He losed his wallet.**

まず、has は消えた。そして、本来の不規則変化
lose lost lost を無視して、
lose losed losed と規則変化にする。

<まとめ>

現在完了は、なくても全く問題は起こらない。きちんと伝わるので大丈夫だ！

5-6 Kan-Ryaku では省略形は使わない

be 動詞の省略形を挙げてみよう。

I' m	→	I am
You' re	→	You are
He' s	→	He is
She' s	→	She is
It' s	→	It is
We' re	→	We are
They' re	→	They are

これまで私（守）には、上の対比がことのほか気になっていた。

Kan-Ryaku の枠組みの中で考えてみても、これらの短縮型はむしろ鬱陶しく、例えば I' m は I am へと元に戻したほうが清涼感もありさっぱりする。後に続く 6 つの短縮形についても同じことが言えそうだ。

一般的に見て、「ひげ」を付けると、落ち着きが失われ、胡散臭く安定感がな

い。「ひげ」を取り除くことによって、ややっこしいことから解放された爽快さが生まれる。

助動詞の省略形についても同じことが言えそうだ。

don' t	→	do not
didn' t	→	did not
can' t	→	cannot

これで頭がすっきりする。

<まとめ>

単語の中にヒゲがつくと何となく鬱陶しい！ Kan-Ryaku では要するに、すべての省略形は無視して、元の形に戻す。

5-7 Kan-Ryaku では感嘆文は使わない

感嘆文は what や how を使わなくても、同種の内容のことを表現することは可能である。ちょっと知恵を絞ればいい。very を 2 回 very-very、さらに強調したいときは 3 回、つまり very-very-very とすればいい。ちょっと上げすぎ嫌いもあるが、むしろ驚くぐらいの方が真意は伝わりそうだ。

Anna is a wise office worker. (アンナはとても賢い OL だ)

アンナの賢さを感嘆文で表現することはそれほど難しい作業ではない。

What a wise office worker Anna is! (アンナは何と賢い OL なんだろう！)

普通の人より少し多めに英語を学んだ者にとっては、あれこれ註釈を付けて解説されると、かえっていい加減にしてくれとクレームの一つも言いたくなるようだ。でも、Kan-Ryaku では、次のように表現する。

Anna is very-very wise office worker.

———Kan-Ryaku では不定冠詞の a は原則的に使用しない。これでわざわざ感嘆文にしなくても、十分に自分の気持ちを言い表すことは可能だ。

でも very-very では、まだものたりないという人には、さらに very を 1 つ加え、

Anna is very-very-very wise office worker.

にすればいいだけの話である。

＜まとめ＞

Kan-Ryaku の世界では、必ずしも感嘆文はそれほど必要ではないかも知れない。しかしビジネスの世界で働く場合、人間関係は重要だし、そこで使われる何気ない日常語の中に、温かい人間関係を維持するために感嘆文も求められるかも知れない。

5-8 Kan-Ryaku では、進行形の-ing は使わない！

動詞の語尾に-ing を付けると、現在形であろうが過去形であるが、「〇〇しつつあります」とか「〇〇しつつありました」になる。でも私(守)は now (いま) を上手にを使って~ing なしで進行形が作れないかと長い間、考えてきた。

1 つ例文を挙げてみよう。

「私たちは公園の中を散歩している」

We are walking in the park.

これを now を使って表現し直すと、

Now, we walk in the park.

(いま、私達は公園の中を散歩している)

となる。これで十分過ぎるほど、進行形と同じ意味を表すことができる。

Kan-Ryaku では the は使えないので、

Now, we walk in park.

となる。これで十分過ぎるほど進行形と同じ意味を表すことができる。

また、過去進行形についても見てみよう。

「私たちは公園の中を散歩していた」

これをいままでの英語で表現すると、

We were walking in the park.

となる。

Kan-Ryaku に置き換えると、

Then, we walked in park.

(そのとき、私は公園の中を散歩していた)

進行形の-ing を使わず、過去形の walked をもってきて、頭に then(そのとき)を使えば、立派な過去進行形になる。

＜まとめ＞

現在進行形には now (いま) を、過去進行形には then (そのとき) を使えば、-ing なしで進行形は OK! だ。

5-9 Kan-Ryaku では関係代名詞は使わない

これまでの関係代名詞の説明では、まず、次のような説明から始まる。

He is a teacher.

He teaches history.

これら 2 つの文章をつなげて、1 つにすると、関係代名詞の who を使用する。つまり、

He is a teacher who teaches history.

(彼は歴史を教える先生だ = 彼は歴史の先生だ)

- ① Kan-Ryaku ではまず、a を取り除く。
- ② who の後に来ている teach の語尾が -es になっているが、Kan-Ryaku の場合には 3 人称現在の場合でも、動詞は変わらない。

従って、Kan-Ryaku ではまず第 1 ステップとして、

He is teacher who teach history.

と、単純化する。その上で、関係代名詞のような複雑なものを省いて行く。Kan-Ryaku はとにかく単純化して、意思の疎通を図ることを目的にする。だから、who を取り除き、もとの he に戻す。

He is teacher. He teach history.

になる。

実際、会話では関係代名詞はあまり使わない。従って、時計の針を逆に戻した上で、元の文章まで Kan-Ryaku にしている。

もう 1 例あげてみよう。

This is the book which I bought yesterday.

これを Kan-Ryaku で表現すると、

buy buyed buyed

この結果から、

This is book. I bought it yesterday. (これは本です。私は昨日、買いました)
になるわけです。

<まとめ>

文章をわざわざつなげなくても、意思の疎通には困らない。会話においては関係代名詞を使うことはあまりない。

5-10 Kan-Ryaku では熟語は原則使わない

Kan-Ryaku では、ややっこしい熟語はできるだけ使用を避けたい。

for good (永遠に)	= forever
for nothing (無料で)	= free
give up (あきらめる)	= abandon → give-up
look at (~を見る)	= see
look for (~を探す)	= seek
look up to (尊敬する)	= respect
make up one's mind (決意する)	= decide
put off (延期する)	= postpone
put up with (我慢する)	= bear
take care of (世話する)	= attend
take part in (参加する)	= join
wait for (待つ)	= await → wait-for

正直、このレベルの熟語だと 1 語に置き換えても、それほど違和感はない。これまでにどこかで見たか、よく知っているレベルの熟語だ。

でも、wait for の代わりに 1 語の await を使った場合、または give up の代わりに abandon を使うとなると、強烈な抵抗を覚えてしまう。

では、何かいい考え方はあるだろうか。Kan-Ryaku ではどのように表現したら、広く支持を得られるのか。既存の枠の中では解答は得られそうもない。これまでの枠を飛び越えて、全く新しい発想に基づいて、思い切った意外な表現形式が求められる。

あえて奇抜な意見を出せば、

give up	→	give-up
wait for	→	wait-for

このように 2 つをハイフンで繋いで、1 語として使う手も考えられる。

I give-up plan. (私は) 計画を諦める)
I wait-for her. (私は彼女を) 待っている)

こんな風に単語をハイフンで繋げば、初級英語を理解する者であれば、誰に

でも考え付くレベルの英語である。やさしいし、この考え方は極めて現実的なものである。すでに実績があるからだ。下記に挙げるものは、いずれもすでに辞書にのっているモノばかりだ。

by-product (副産物)
forget-me-not (勿忘草 [わすれなぐさ])
look-alike (そっくりさん)
looker-on (見物人、傍観者)
passer-by (通過客)

<まとめ>

近い将来、例えば wait-for が1語として世界的に認められ、辞書の中に、正規の単語として認知される日が来ることを期待したい。もしそうなれば Kan-Ryaku という新しい英語が認知されたことになるのだから。

5-11 Kan-Ryaku では should, would は使わない

意思の疎通が可能なら、やさしい表現を好む者にとって、should とか would とかが突然、顔を出してくると何となく胡散臭さを覚えてしまう。実際、should や would がなくても意思の疎通に困るということは先ずないだろう。

should は must に近い意味で使われることが多い。つまり、「～しなければならない」である。ならば should など使うのはさっさとやめて、must1 本に絞ればいいだけの話だ。確かに must の方が should よりきつい言葉である。でも、**You should study hard. (君はもっと一生懸命勉強すべきだ)**を、**You must study hard.** と言い換えても、日常会話で支障をきたすことはまずありえない。ならば、should などさっさとやめて must1 語に絞ればいい。

また、**would は would like** という表現で、英語の世界によく姿を見せる「～したい」は丁寧で遠慮がちな表現になるが、**Kan-Ryaku** の世界では、そのような微妙な表現には耳を貸さないの、このような表現はなくていい。不要だ。

would などというややこしく見える単語は取り除くに限る。

ここは短く like(～が好きである)か、それとも want (～したい) で行くことにしたいものだ。

I would like to go shopping next Sunday.
(来週の日曜日、買い物に行きたい)

これを **Kan-Ryaku** では、**I want to go shopping next Sunday.**で OK だ。両者の間で解釈を間違えることは先ず生じない。

＜まとめ＞

日常的に英語を話している人にとっては、**should** や **would** を上手に使うと、話し上手にみられることもある。でも、**Kan-Ryaku** ではとにかく言葉を簡単にして、コミュニケーションを保つことを優先させるので、**should** も **would** も使わない。

5-12 仮定法はできるだけ使わないようにしたい。日本では中学校の英語の授業で仮定法は教えない。これがいいのかどうか意見は大きく割れるとは思いが(?)

日本の中学校では仮定法を教えない。これの善悪は意見が大きく分かれるところだ。**Kan-Ryaku** には、国境もないし、提案者の私たち(守、青井)も、**Kan-Ryaku** を語る場合、国境を全く意識しない。ただ初期の段階ではアジアを中心に受け入れられることを願い、先ずは、そこには境界線は引かない。ただ、**Kan-Ryaku** を広める意味で、まずはアジアを中心にはじめて、ゆくゆくは世界に広げることが夢見ている。

仮定法の形式は、できるだけシンプルなものにしたい。次に挙げるのは、文字通り極めて単純な表現の仮定法だ。

明日、天気なら、私たちは京都に行く！

If it is fine tomorrow, we go to Kyoto.

will は **Kan-Ryaku** では使わない。

これを限度に、あまり複雑な表現形式は避けたい。あとは置かれたその時々状況を上手に加味して、表現していただきたい。これまでに **Kan-Ryaku** 簡便法の知恵を読者の皆様は頭に入れ込まれたと思う。

＜まとめ＞

読者の皆様に一つの宿題として、仮定法の **Kan-Ryaku** の世界をぜひ発展させていただきたいものである。

6. Kan-Ryaku で造語を楽しむ

6-1 『「奇数」と「偶数」を英語で言えますか』

日本語の日常会話の中で英語の得意な友人に、突然、こんな質問をぶつけると、相手はまるでテストされているみたいで嫌な気分になったかも知れない。でも、さすが英語の達人だけあって、いとも簡単に次の正解を口にした。

奇数 odd number
偶数 even number

しかし、少し英語ができるレベルのビジネスマンだったら正解は期待できなかったかも知れない。

そこで、**Kan-Ryaku** の頭で考えてみることにしたい。つまり、数字を使って奇数、偶数を表せば、誰でも簡単に頭に入れられると思ったからである。

数字の 1, 2, 3, 4, 5, 6 は

one, two, three, four, five, six だ。

これらを使って、「奇数」「偶数」を表せば、

奇数 one-three-five number
偶数 two-four-six number

正直、この表現なら絶対に間違えることはないし、忘れることもほとんど考えられない。**Kan-Ryaku** の力ここにありだ。

正直、正式の英語表現では、一瞬、どっちだったかな odd number だったか even number だったか迷うことがきっとあるだろう。

<まとめ>

Kan-Ryaku なら絶対忘れない！！ Kan-Ryaku なら絶対間違わない！！
奇数は one-three-five number, 偶数は two-four-six number だ！

6-2 「引き潮」と「満ち潮」を英語で言えますか

「引き潮」「満ち潮」は、日常生活の会話の中では、そうそう出てくるような言葉ではない。さりとして決して特殊な言葉でもない。それでいて日本人の成人だったら誰でもがよく知っている比較的常識的な日常語である。

それが、ひとたび日本語ではなく「英語で言えますか」と突然質問されたら、英語の実力の差が一発で分かってしまう。英語の初級者か上級者かが浮き彫りになるリトマス試験紙のような不思議な言葉だ。

解答は次の通り――。

引き潮・干潮 ebb
満ち潮・満潮 flow

以上を二つ合わせて「潮の干満」は、ebb and flow となる。

このような数学的な説明だと、眼で単語を追いながら、理解できたような気になる。ところが何日か日を置いて、「満潮を英語で何と言いますか」と尋ねてみると、知っているはずだが直ぐに答えられない。やさしいようで案外、むずかしい言葉だったのである。

そこは Kan-Ryaku の強みで、何のためらいもなく、さっと答えが出てくるのである。

●「満潮」の時は潮が満ちて、沖合から海岸に向かって波が迫ってくる。

⇒ come

●「干潮」の時は潮が沖合に向かって引いて行く。

⇒ go

上の考え方を頭に入れて、Kan-Ryaku では、次のようになる。

満潮 come-wave

干潮 go-wave

come、go を上手に使い、潮の流れの方向が瞬時につかめる。ネイティブも一瞬、思考を止めて次の瞬間、「ああ、なるほどなるほど」と理解を示すであろう。

波の動きが見えるようで、**Kan-Ryaku** の英語の方が優れている (?)。

＜まとめ＞

Kan-Ryaku は視覚に訴える表現だ。1 度、覚えると先ず絶対に忘れない。将来、満潮が come-wave、干潮が go-wave として広く世界で認められる日が来ることを願う。

「津波」のことは昔は、tidal wave といった。現在では日本語の tsunami が世界的に認知され、そのまま tsunami で通用する。世界的に有名な英国で発行されている大辞典 Oxford には、驚くことに津波の形容詞の「津波の」が tsunamic として載っている。

おわり

以上で、**Kan-Ryaku** の説明は＜未完のまま＞終わろうとしている。

長い英文を **Kan-Ryaku** に直し、「**Kan-Ryaku** だと、こんな風になりますよ」と例文を示し、**Kan-Ryaku** に関心を持ち始めた人たちに、より分かりやすく、かつ、きちんと説明するのが発案者の義務ではないか、こんな問いや訴えが当然出てくるものと思う。

これまでに私（守）は数十冊の本を世に送ってきた。海外で出したものを入れると発行部数は総計 350 万部近くには達しているかと思う。その中で、私が最初に出した本は『**未完成の本 現在を書き込む**』（サイマル出版社 1973 年）であった。元来、私（守）は完成されたものよりは＜未完のもの＞を特に好む。全部、完全に仕上がったものにはあまり興味がない。小説にしても、「完決」よりも読者の「想像」にまかせるタイプのものを好む。

実は、「未完」という魅力的な概念を世界に強烈に広めた人物がいる。19 世紀から 20 世紀にかけて活躍したスペインの代表的アールヌーボー建築の第一人者である**アントニオ・ガウディ (Antonio Gaudí Cornet 1852-1926)**で、未完成のサグラダ・ファミリア大聖堂を残した。彼は、完成する前に他界してしまったので、結果として「未完」という素敵なことばを残してくれた。

彼の死後 90 年近くたつが、この聖堂の完成に向けて多くの建築家や協力者が、今日でもなお日夜、現場で汗を流して聖堂の完成に向けて働き続けている。

Kan-Ryaku の世界の読者がネット上で、自説を展開され、喧々諤々の論争を展開させながら、新しい地平を切り開いて行かれることを期待したい。**Kan-Ryaku** は少し大げさに言えば、**Gaudi-like English** と呼べるかも知れない。

多くの追加と訂正が求められるからである。気になる部分は山ほどある。余りにも荒削りで、言語体系としては脆弱であり過ぎる。

私たち(守、青井)は単なる一介の問題提起者に過ぎない。

読者がネット上で互いに、自由に意見交換されることを心から願っている。

とにかく、Kan-Ryaku は誰でもが参加できる「広場」である。

読者同士で様々な意見の交換を行い、その結果として、魅力的な

Kan-Ryaku が誕生して行くことを期待したい。

最後に一言。これまで自分で書かれた英文なり、眼の届く範囲にある雑誌や書籍の中から自分の好きな英文を引き出してきて、Kan-Ryaku で書き直してみたい。

“とんでもない”英文が姿を現し、一瞬、大声を張り上げてしまう。

「これは一体、何？何？何？」

しかし、慣れてくると不思議なもので「Kan-Ryaku はきっと可愛いわが子のよう
な存在」になって行くに違いない。

あまり肩肘張らず、生真面目にならず、のびのびとやっていただくことを心から期待したい。

著者連絡先：守 誠 (Makoto MORI)

名古屋市立大学 22 世紀研究所

〒467-8601 愛知県名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄 1

E-mail: mm-421133 @ nifty.com

(使用時@前後のスペースを除去して下さい)

Published online; February 29, 2016

Kan-Ryaku's Basic English Words 1500

A 86 words

a	一つの	ally	同盟する/同盟国
able	～できる	almost	ほとんど
about	～について/約	alone	一人で
above	～の上に	along	～に沿って
accept	受け入れる	already	すでに
account	勘定	also	～もまた
accuse	告発する	although	（～である）けれども
achieve	達成する	always	いつも
across	横切って	ambulance	救急車
act	行う/行為	among	～の中で
adapt	適応させる	amount	総計(～に達する)
add	加える	and	そして
admit	認める	angle	角度
advertisement	広告	angry	～に怒って
advise	忠告する	animal	動物
affect	影響する	animation	アニメ
afraid	～を恐れる	announce	発表する
after	～の後に	another	もう一つの
again	再び	answer	答え(る)
against	～に反対して	any	いくらかの
age	年齢	apologize	謝る
agent	代理店	appeal	懇願する
ago	～前に	appear	現れる
agree	賛成する	apply	適用する
agriculture	農業	appoint	指さす
ahead	前方に	approve	認める
aid	援助(する)	area	地域
aim	狙う	argue	論争する
air	空気	arm	腕/(～s)武器
airplane	飛行機	army	軍隊
alive	生きている	around	～のまわりに
all	すべての	arrest	逮捕する
allow	許す	arrive	到着する

art	芸術	attention	注意
as	～のように/～として	authority	権威
ask	～を尋ねる/～を頼む	automatic	自動的な
assist	助ける	autumn	秋
at	～に、～で	available	手に入る/利用できる
athlete	運動選手	average	平均(の)
attach	はり付ける	avoid	避ける
attack	攻撃(する)	awake	目が覚める
attempt	試みる(る)	award	(賞として)与える
attend	出席する/世話する	away	離れて

B 98 words

baby	赤ちゃん	begin	始まる
back	後ろの/背中	behind	～の後ろに
bad	悪い	believe	信じる
bag	袋	bell	ベル
balance	均衡/収支残高	belong	～に属する
ball	ボール	below	下に
ballot	無記名投票	bend	曲げる
ban	禁止する	beside	～のそばに
bank	銀行	best	最も良い
bar	バー/棒	betray	裏切る
barrier	障壁	better	よりよい
base	土台/基地	between	の間に
basket	かご/バスケット	big	大きい
bath	入浴	bill	請求書
battle	戦闘	bird	鳥
be	～である/～となる	birth	誕生
bear	耐える/[動物]くま	bite	かむ
beat	打つ	black	黒い
beautiful	美しい	blade	刃
because	～だから	blame	非難する
become	～になる	blank	空白
bed	ベッド	blanket	毛布
beer	ビール	bleed	出血する
before	～の前に	blind	目の見えない

block	大きな塊/(道路を)ふさぐ	bread	パン
blood	血	break	壊す/休息
blow	(風が)吹く	breathe	呼吸する
blue	青い	bridge	橋
board	板	brief	簡潔な/短時間の
boat	ボート	bright	明るい/頭がよい
body	からだ	bring	持って来る
bomb	爆弾	broad	広い
bone	骨	broadcast	放送(する)
bonus	ボーナス	brother	兄弟
book	本/予約する	brown	褐色(の)
border	境	brush	ブラシ
born	生まれた	budget	予算
borrow	借りる	build	建てる
boss	上司	building	ビルディング
both	両方(の)	bullet	弾丸
bottle	びん	burn	燃える
bottom	底	burst	破裂する
box	箱	bury	埋める
boy	少年	business	ビジネス
boycott	ボイコット(する)	busy	忙しい
brain	脳/(~s)知能	but	しかし
brake	ブレーキ	butter	バター
branch	枝/支部	buy	買う
brave	勇敢な	by	(~に)よって

C 134 words

cabinet	内閣	capital	首都
call	呼ぶ	capture	捕える
calm	静かな	car	車
camera	カメラ	card	カード
camp	キャンプ	care	世話
campaign	キャンペーン	carry	運ぶ
can	~できる	case	場合
cancel	取り消す	cash	現金
cancer	がん	cat	猫

catch	つかむ	clear	明確な
cause	原因	climate	気候
celebrate	祝う	climb	登る
cell	細胞	clock	時計
center	中心	close	閉じる/近い
century	世紀	cloth	布
ceremony	式	cloud	雲
certain	確かな	coal	石炭
chain	鎖	coast	海岸
chair	椅子	coat	上着
challenge	挑戦(する)	code	暗号
champion	チャンピオン	cold	寒い
chance	機会	collect	集める
change	変化(する)	college	(単科)大学
channel	チャンネル	colony	植民地
character	性格/特徴/登場人物	color	色(簡略英語では語尾 の or は →er)
charge	請求する/経費	combine	結合する
chart	図表	come	来る
chase	追跡する	comfort	慰める
cheap	安い	command	命令する
check	調べる	comment	評論する
cheer	応援する	committee	委員会
cheese	チーズ	common	共通の
chemical	化学の/(~s)化学製品	communicate	伝達する
chief	(集団・組織などの)長/ 主要な	community	コミュニティ
children	子どもたち	company	会社
choose	選ぶ	compare	比較する
church	教会	compete	競争する
circle	円	complete	完全な/完成する
citizen	市民	compromise	妥協(する)
city	都市	computer	コンピュータ
civilian	民間人	concern	(~に)関係する
claim	要求(する)	condemn	非難する
clash	衝突する	condition	条件
class	学校のクラス/授業	conference	会議
clean	清潔な	confirm	確認する

congratulate	祝う	court	裁判所
congress	国会/大会	cover	覆う
connect	つなぐ	cow	牛
consider	熟慮する	crash	衝突する
consumption	消費	create	創る
contact	接触(する)	credit	クレジット/信用
contain	含む	crew	乗組員
continent	大陸	crime	犯罪
continue	続く	crisis	危機
control	支配(する)	criticize	批判する
cook	料理する	crop	(しばしば～s) 作物
cool	涼しい	cross	渡る
cooperate	協力する	crowd	群衆/群がる
copy	写し(す)	crush	押しつぶす
corn	とうもろこし	cry	泣く
corner	隅	culture	文化/養殖(する)
correct	正しい/直す	cup	カップ
cost	費用	cure	治療する
cotton	綿	current	現在の/電流
count	数える	custom	習慣/(～s)税関
country	国	customer	得意先
course	進路	cut	切る

D 79 words

damage	損害	debt	借金
dance	ダンス/踊る	decide	決める
danger	危険	declare	宣言する
dark	暗い	decrease	減らす/減少
date	日付	deep	深い
daughter	娘	defeat	敗北(させる)
day	日	defend	防御する
dead	死んでいる	define	定義する
deaf	耳が聞こえない	degree	程度
deal	取引	delay	延期する
dear	拝啓/親愛なる	delicate	傷つきやすい
debate	論じる	deliver	届ける

demand	要求する/需要	discuss	論じる
demonstrate	明らかに示す	disease	病気
dentist	歯科医	disk	<コンピュータ> ディスク
deny	否定する	dismiss	解雇する/解散させる
departure	出発	dispute	論争(する)
depend	頼る	distance	距離
deploy	配置する	divide	分ける
depression	憂鬱/不況/鬱病	do	する
describe	記述する	docter	医者/博士(簡略英語では語尾の or は →er)
desert	砂漠	document	文書
design	デザイン(する)	dog	犬
desire	強く望む	doller	ドル (簡略英語では語尾の ar は→er)
destroy	破壊する	door	戸
detail	細部	doubt	疑う
develop	開発する	down	下に
device	機器	draw	描く
die	死ぬ	dream	夢(を見る)
diet	飲食物/ダイエット	dress	ドレス
differ	異なる	drink	飲む
difficult	困難な	drive	運転する
dig	掘る	drop	落とす
dinner	夕食	drug	薬/麻薬
diplomat	外交官	dry	乾いた
direct	直接の	during	~の間
direction	方向	dust	ほこり
disappear	消える	duty	義務
disaster	災害		
discover	発見する		
discrimination	差別待遇		

E 73 words

each	それぞれの	earthquake	地震
ear	耳	east	東
early	早く	easy	やさしい
earn	稼ぐ	eat	食べる
earth	地球	ecology	生態学

economy	経済	estimate	見積もる/見積もり
edge	へり	ethnic	民族の
education	教育	evaporate	蒸発させる
effect	結果/効果	even	～でさえも
effort	努力	event	出来事
egg	玉子	ever	かつて/今までに
either	どちらかの	every	すべての
elastic	弾性のある	evidence	証拠
elect	選挙する	evil	邪悪(な)
electricity	電気	exact	正確な
element	要素	example	例
embassy	大使館	except	～を除いて
emergency	緊急事態	exchange	交換(する)
emotion	情緒	excuse	言い訳(する)
employ	雇う	execute	実行する
empty	空(から)の	exercise	運動(する)
end	終わり	exist	存在する
enemy	敵	exit	出口
enforce	(法律・規則などを)施行 する	expand	拡大する
engine	エンジン	expect	期待する
enjoy	楽しむ	expense	費用
enough	十分な	experience	経験
enter	入る	experiment	実験
entertain	楽しませる	expert	専門家
environment	環境	explain	説明する
equal	平等な	explode	爆発する
equipment	装置	explore	探検する
erase	(消しゴム、黒板ふきで) 消す	export	輸出(する)
escape	逃亡する	express	表現する
especially	特に	extend	広げる
establish	設立する	extreme	極端な
		eye	目

F 80 words

face	顔	fire	火/火事/解雇する
fact	事実	firm	堅い/会社
factory	工場	first	最初の
fail	失敗する	fish	魚
fair	公正な	fit	ふさわしい
fall	落ちる	fix	固定する/直す
false	誤った	flag	旗
family	家族	flat	平らな
famous	有名な	float	浮かぶ
far	遠い	flood	洪水
fast	速い	floor	床
fat	太った	flow	流れ
father	父親	flower	花
favorite	一番好きな	fluid	液体
fear	恐怖	fly	飛ぶ
feather	羽毛	fog	霧
feature	特徴	fold	折る
feed	食べ物を与える	follow	ついてゆく
feel	感じる	food	食べ物
female	女性の	fool	ばか者
fertile	(土地が)肥えた	foot	足
few	少ない	for	～のために/～に向かって
field	畑/分野	forbid	～を禁じる
fierce	激しい	force	力/軍事力
fight	戦う	foreign	外国の
figure	姿	forest	森林
file	ファイル	forget	忘れる
fill	満たす	forgive	許す
film	(主に英)映画/フィルム	form	形
final	最後の	former	前の
financial	金融上の	forward	前方へ
find	見つける	frame	枠
fine	立派な/細かい/罰金	free	自由な/無料の
finger	指	freedom	自由
finish	終える	freeze	凍る

fresh	新鮮な	fruit	果物
friend	友達	fuel	燃料
frighten	ぞっとさせる	full	いっぱい
from	～から	fun	楽しみ/愉快的な
front	前面	future	未来

G 35 words

gain	手に入れる	good	よい
gallon	ガロン	government	政府
game	ゲーム	grass	草
garden	庭	gray	灰色(の)
gas	ガス	great	大きな/偉大な
gather	集める	green	緑
general	一般の/将軍	ground	土地
gentle	優しい	group	集団
get	手に入れる	grow	成長する
gift	贈り物	guarantee	保証(する)
girl	少女	guard	守る
give	与える	guerrilla	ゲリラ
glass	ガラス	guess	推測する
global	世界的な	guide	案内(する)
go	行く	guilty	有罪の
goal	目標	gun	銃
god	神	guy	男性/や
gold	金		

H 58 words

hair	毛	hard	困難な
half	半分(の)	harm	傷つける
halt	止まる	hat	(縁のある)帽子
hand	手	hate	憎む
hang	つるす	have	持つ
happen	起こる	he	彼
happy	幸せな	head	頭

heal	治す	home	家
health	健康	honest	正直な
hear	聞く	hope	願う
heat	熱(する)	horrible	恐ろしい
heavy	重い	horse	馬
help	助け(る)	hospital	病院
her	彼女の(を)	hostage	人質
here	ここ	hostile	敵意のある
hero	英雄	hot	暑い/辛い
hide	隠す	hour	時間
high	高い	house	家
hijack	ハイジャック(する)	how	どのように/どれほど
hill	丘	however	しかしながら
him	彼に(を)	huge	巨大な
hire	雇う	human	人間(の)
his	彼の / 彼のもの	humer	ユーモア (簡略英語では語尾の or は →er)
history	歴史	hungry	空腹の
hit	打つ	hunt	狩る
hold	持つ/開催する	hurry	急ぐ
hole	穴	hurt	傷つける
holiday	休暇	husband	夫
hollow	空(から)の/うつろな		
holy	神聖な		

| 49 words

I	私	inch	インチ
ice	氷	incident	事件
idea	発想	include	含む
identity	本人であること	increase	増大(する)
if	もし	independent	独立した
ill	病気の	indicate	示す
imagine	想像する	individual	個人
import	輸入(する)	industry	工業
important	重要な	infect	感染させる
improve	改善する	influence	影響(を与える)
in	の中に(で)	inform	知らせる

inject	注射する	Internet	インターネット
injure	傷つける	into	～の中へ
innocent	無罪の/無邪気な	invade	侵略する
insane	狂気の	invent	発明する
insect	昆虫	invest	投資する
inspect	検査する	investigate	調査する
instead	その代わりに	invite	招待する
insult	侮辱(する)	involve	～を必ず含む/巻き込む
insurance	保険	iron	鉄
intelligence	知能/高度情報	island	島
intense	強烈な	issue	問題点
interest	関心	it	それ
interfere	干渉する	item	項目
international	国際的な		

J 12 words

jail	刑務所	joy	喜び
jewel	宝石	judge	裁判官
job	仕事	jump	跳ぶ
join	結合する/参加する	jury	陪審(員)
joint	継ぎ目	just	ちょうど
joke	冗談	justice	正義

K 12 words

keep	保つ	king	王
key	鍵	kiss	キスする
kick	蹴る	kit	ひとそろい
kid	子供	kitchen	台所
kill	殺す	knife	ナイフ
kind	親切的な/種類	know	知る

L 54 words

labor	労働 (簡略英語では語尾 の or は →er)	laboratory	研究室(所)
		lack	欠く

lake	湖	like	好む
land	陸地	limit	限界/制限する
language	言語	line	線
large	大きい	link	つなぐ
last	最後の	lip	唇
late	遅い	liquid	液体
laugh	笑う	list	リスト
law	法律	listen	聴く
lay	置く	little	小さい
lead	導く/鉛	live	住む
leak	漏らす	load	積む
learn	学ぶ	loan	貸付金
least	最少の	local	現地の
leave	去る	locate	～に位置する
left	左(の、へ)	lock	鍵(を掛ける)
leg	脚	lone	独りの
legal	合法的な	long	長い
lend	貸す	look	見る
length	長さ	loose	ゆるい
less	より少ない	lose	失う
let	～することを許す	lot	たくさんのもので/くじ
level	程度	loud	うるさい
lie	横たわる/嘘をつく	love	愛(する)
life	生命	low	低い
lift	上げる	luck	運
light	光/軽い		

M 70 words

magic	魔法	man	男
mail	郵便	manufacture	製造(する)
main	主要な	many	多くの(簡略英語では many が、much も兼ねる)
majer	大手の(簡略英語では語尾の-or は→er)	map	地図
make	作る	march	行進する/(M～)3月
male	男の	mark	印

market	市場	minister	大臣
marry	結婚する	miner	小さい方の(簡略英語では語尾の-or は→er)
master	習得する/征服する		<…この miner には「炭鉱夫」という意味もある>
match	試合	miss	失敗/淋しく思う
material	材料	mistake	誤り
matter	問題/事柄/物質	misunderstand	誤解する
may	～かも知れない	mix	混ぜる
mayer	市長(簡略英語では語尾の-or は→er)	mob	暴徒
<hr/>		model	ひな型
me	私に	moderate	適度の/穏健な
meal	食事	modern	現代的な
mean	意味する	money	カネ
measure	計る、測る	month	(暦の)月
meat	肉	moon	月
media	メディア/媒体	moral	道德
meet	会う	more	より多く
member	一員	morning	朝
memory	記憶	most	最も
mental	精神の	mother	母親
<hr/>		motion	動き
message	伝言	mountain	山
metal	金属	mouth	口
meter	メートル	move	動く
method	方法	murder	殺人
middle	真ん中	muscle	筋肉
might	～かもしれない/力	music	音楽
mile	マイル	must	～すべきである
military	軍隊の/軍人	my	私の
milk	牛乳	mystery	神秘
million	百万		
<hr/>			
mind	心		
mine	私のもの/鉱山/地雷		

N 32 words

nail	爪/くぎ	nation	国家
name	名前	native	出生地の/土地の人
narrow	狭い	navy	海軍

near	近い/近くに	no	いいえ
necessary	必要な	noise	騒音
neck	首	noon	正午
need	～する必要がある	normal	正常な
negotiate	交渉する	north	北
neighbor	隣人 (簡略英語では語尾の-or は→er)	nose	鼻
neither	(AでもBでも～)ない	not	～でない
nerve	神経	notebook	ノート
new	新しい	nothing	何も～ない
news	ニュース	notice	気づく
next	次の	now	いま
nice	よい/楽しい	nuclear	原子力の
night	夜	number	数字

0 35 words

obey	従う	operate	操作する/手術する
object	対象/反対する	opinion	意見
observe	観察する	opportunity	機会
occupy	占領する	opposite	反対の
occur	起こる	oppress	圧迫する
of	～の	or	あるいは
off	離れて/外れて	order	順番/命令
offensive	不快な/攻撃	organize	組織する
offer	提供する	other	他方の
office	事務所	ounce	オンス
officer	将校/役人	our	われわれの
often	しばしば	ours	われわれのもの
oil	石油	oust	追い出す
old	古い	out	外へ
on	～の上に	over	～の上に/終わる
once	一度	owe	借りがある
only	唯一の/単に	own	自分自身の
open	開く		

P 105 words

page	ページ	piece	一個/一片
pain	痛み	pig	豚
paint	ペンキ(を塗る)	pilot	パイロット/水先案内人
pan	浅鍋	pint	パイント([米] 約 0.47 リットル; [英] 約 0.57 リットル)
pants	ズボン/パンツ	pipe	管
paper	紙	place	場所
parade	行列	plain	明白な/簡素な/(~s) 平原
parcel	小荷物	plan	計画(する)
parent	親/(~s) 両親	plane	飛行機
parliament	国会	plant	植物/プラント
part	部分	plastic	プラスチック
party	パーティ/政党	plate	皿
pass	通る/合格する	play	遊ぶ/(楽器を)弾く/劇
passenger	乗客	please	喜ばせる/どうぞ
past	過去	plenty	十分な
paste	張り付ける	point	点
path	小道	poison	毒
patient	患者/忍耐強い	policy	方針
pattern	柄	politics	政治
pay	払う	pollute	汚染する
peace	平和	poor	貧しい
pen	ペン	populer	人気がある (簡略英語では語尾の-ar は→er)
pencil	鉛筆	population	人口
people	人々	port	港
percent	パーセント	position	位置/立場
perfect	完全な	possess	所有する
perform	演じる	possible	可能な
perhaps	おそらく	postpone	延期する
period	期間	potato	ジャガイモ
permanent	永久の	pound	ポンド
permit	許す	pour	注ぐ
person	人	powder	粉
physical	身体の		
pick	入念に選ぶ		
picture	絵		

power	力	profit	利益
practice	練習(する)	program	プログラム
praise	褒める	progress	進歩/進行
prayer	祈る	project	計画
pregnant	妊娠している	promise	約束(する)
present	現在の/出席している/ プレゼント	property	財産
press	押す	propose	提案する
pretty	きれいな/かなり	protect	守る
prevent	防ぐ	protest	異議(を申し立てる)
price	価格	prove	証明する
print	印刷する	provide	提供する
prison	刑務所	public	公共の
private	個人的な	publish	出版する
prize	賞	pull	引く
problem	問題	punish	罰する
process	過程	purchase	購入(する)
product	商品	pure	純粋な
professor	教授 (簡略英語では語尾 の-or は→er)	purpose	目的
		push	押す
		put	置く

Q 9 words

quality	質	quick	速い
quantity	量	quiet	静かな
quarter	4 分の1	quit	辞める
queen	女王	quite	かなり
question	質問		

R 82 words

race	レース	rain	雨
rader	レーダー (簡略英語では 語尾の-ar は→er)	raise	持ち上げる
radiation	放射能	range	範囲
raid	襲撃	rare	まれな
railroad	鉄道	rate	割合/料金
		rather	多少/むしろ

ray	光線	respect	尊敬(する)
reach	着く	responsible	責任がある
react	反応する	rest	休息/残り
read	読む	restrain	抑える
ready	準備ができた	result	結果
real	現実の/本物の	retire	引退する
reason	理由/理性	return	戻る
receive	受け取る	revolt	反乱(を起こす)
recently	最近	reward	報酬
recognize	見分ける/認識する	rice	コメ
record	記録/レコード	rich	金持ちの
recover	回復する	ride	乗る
red	赤(い)	right	正しい/右/権利
reduce	減らす	ring	指輪
refugee	難民	riot	暴動
refuse	拒絶する	rise	立ち上がる
regret	後悔する	risk	危険
reject	拒否する	river	川
relation	関係	road	道
release	解放する	rob	奪う
remain	残る	rock	岩
remember	覚えている	rocket	ロケット
remove	取り去る	roll	転がる
repair	修理する	roof	屋根
repeat	繰り返す	room	部屋/余地
report	報告(する)	root	根
represent	～を代表する	rope	ロープ
request	頼む	rough	粗い
require	必要とする	round	丸い
rescue	救助する	row	列
research	研究する	rub	こする
resign	辞職する	rubber	ゴム
resist	抵抗する	ruin	破壊する
resolution	決意/決議	rule	規則/支配する
resources	資源	run	走る

S 196 words

sad	悲しい	set	配置する
safe	安全な	settle	決着をつける/決定する
sail	航海する	several	いくつかの
salt	塩	severe	厳しい
same	同じ	sex	性別/セックス
sand	砂	shade	かげ
satellite	衛星	shake	揺り動かす
satisfy	満足させる	shame	恥ずかしさ
save	救う	shape	形
say	言う	share	分け前/配分する
school	学校	sharp	鋭い
science	科学	she	彼女
sea	海	sheet	[通例～s] シーツ
search	探す	shell	殻
season	季節	shelter	保護する/シェルター
seat	席	shine	光る
second	第二の/秒	ship	船
secret	秘密	shirt	シャツ
section	課	shock	ショック
security	安全	shoe	[通例～s] 靴
see	見る	shoot	撃つ
seed	種子	shop	店
seek	探す	short	短い
seem	見える、思われる	shoulder	肩
seize	つかむ	shout	叫ぶ
sell	売る	show	見せる/ショー
Senate	上院	shrink	縮む
send	送る	shut	閉じる
sense	感覚	sick	病気の
sensitive	敏感な	side	側/面
sentence	文	sign	署名する/合図
separate	引き離す/別個の	signal	信号
series	連続	silence	沈黙
serious	深刻な/まじめな	silk	絹
serve	仕える	silver	銀

simple	単純な	solve	解く
since	～以来	some	いくらかの
sincerely	誠実に	son	息子
sing	歌う	song	歌
single	たった一つの	soon	すぐに
sister	姉、妹	sorry	すまなく思っ
sit	座る	sort	種類
situation	状況	soul	魂
size	大きさ	sound	音
skill	技術	south	南
skin	皮ふ	space	宇宙/空間
skirt	スカート	speak	話す
sky	空	special	特別な
slave	奴隷	speech	スピーチ
sleep	眠る	speed	スピード
slide	横滑りする	spell	つづる
slip	すべる	spend	使う/過ごす
slow	遅い	spirit	精神
small	小さい	spread	広げる/塗る
smart	賢い	spring	春/泉/ばね
smash	粉碎する	spy	スパイ
smell	におい(がする)	square	正方形
smile	微笑(する)	stage	舞台
smoke	煙/タバコを吸う	stairs	階段
smooth	滑らかな	stamp	切手
snack	軽食/おやつ	stand	立つ
snake	へび	star	星
sneeze	くしゃみ(する)	start	始まる
snow	雪	starve	飢える
so	だから/とても	state	述べる/国家/状態
soccer	サッカー	station	駅
social	社会の	status	地位
society	社会	stay	滞在する
soft	柔らかな	steal	盗む
soil	土	steam	蒸気
soldier	兵士	steel	鋼鉄
solid	固形の	step	一歩

stick	棒	suffer	苦しむ
still	静止した	suger	砂糖 (簡略英語では語尾の-ar は→er)
stomach	胃	suggest	暗示する
stone	石	suit	スーツ/～に適する
stop	停止する	summer	夏
store	店/蓄える	sun	太陽
storm	嵐	supervise	監督する
story	物語	supply	供給する
straight	真っ直ぐな	support	支援する
strange	奇妙な	suppose	推測する
stream	小川	suppress	鎮圧する
street	通り	sure	～を確信している
stretch	伸ばす	surface	表面
strict	厳格な	surprise	驚かす
strike	打つ/ぶつかる	surround	囲む
string	糸	survive	生き延びる
strong	強い	suspect	疑う
structure	構造	suspend	中止する/延期する
struggle	争う/もがく	swallow	飲み込む
study	勉強する	swear	誓う
stupid	愚かな	sweet	甘い
subject	主題/主語	swim	泳ぐ
substance	物質	symbol	象徴
substitute	代用する	sympathy	同情
succeed	成功する	system	システム
such	～のような		
sudden	突然の		

T 92 words

table	机	task	仕事/任務
tail	尾	taste	味
take	取る	tax	税金
talk	話す	tea	お茶
tall	背の高い	teach	教える
target	標的	team	チーム

tear	引き裂く/(～s)涙	tight	きつい
tell	告げる	time	時間
term	専門用語/期間/(～s) 条件	tin	錫(すず)
terrible	ひどい	tiny	とても小さい
territory	領土	tire	疲れさせる/タイヤ
terror	恐怖 (簡略英語では語尾 の-or は→er)	title	タイトル
test	試験	to	～へ、～に
than	～よりも	today	今日
thank	感謝する	together	一緒に
that	あれ、それ	tomorrow	明日
theater	劇場	tone	音色、語調
their	彼らの	tongue	舌
theirs	彼らのもの	tonight	今夜
them	彼らを(に)	too	もまた/あまりにも
then	そのとき/それから	tool	道具
theory	理論	tooth	歯
there	そこに、そこで	top	一番上(の)
these	これら	total	全部(の)
they	彼ら	touch	触れる
thick	厚い	toward	～の方へ
thin	薄い	town	町
thing	物	track	小道/(競技場の)トラック
think	考える	trade	貿易
third	第 3 の/第 3 番目の人 (もの)	tradition	伝統
thirsty	のどがかわいた	traffic	交通
this	この	train	電車/訓練する
those	それら	transport	運送(する)
though	(～である)けれども	travel	旅行(する)
thought	考え	treason	反逆(罪)
threaten	脅す	treasure	宝
through	～を通して	treat	取り扱う/治療する
throw	投げる	treaty	条約
thus	このように/だから	tree	木
tie	結ぶ	trial	裁判/試用
		tribe	部族
		trick	トリック/だます
		trip	旅

troop	軍隊	try	試みる
trouble	厄介なこと	tube	管、筒
truck	トラック	turn	回す
true	真実の	twice	2度
trust	信用(する)		

U 10 words

under	下に	unless	～でない限り
underground	地下の/(英)地下鉄 <(米) subway>	until	～まで
understand	理解する	up	～の上に
unit	単位	urge	～するよう駆り立てる
universe	宇宙	use	用いる

V 16 words

valley	谷	victim	被害者
value	価値	victory	勝利
vary	変更する	view	意見/景色
vegetable	野菜	violence	暴力
vehicle	乗り物	visit	訪問(する)
very	非常に	voice	声
veto	拒否(する)	volume	量
vicious	邪悪な	vote	投票する

W 67 words

wage	給料	warm	温かい
wait	待つ	warn	警告する
walk	歩く	wash	洗う
wall	壁	waste	浪費する
want	欲する	watch	見守る
war	戦争	water	水

wave	波	wild	野生の
way	道	win	勝つ
we	私たち	wind	風
weak	弱い	window	窓
wealth	富	wine	ぶどう酒
weapon	武器	wing	翼
wear	着る	winter	冬
weather	天気	wire	針金/電線
week	週	wise	賢い
weight	重さ	wish	～を望む
welcome	歓迎する	with	～と一緒に
well	よく/井戸	window	窓
west	西	without	～なしに
wet	ぬれた	woman	婦人
what	何	wonderful	素晴らしい
wheat	小麦	wood	木材
wheel	輪	wool	羊毛
when	いつ	word	単語
where	どこに	work	仕事(をする)
whether	～かどうか	world	世界
which	どちらの	worry	心配する
while	～する間に	worth	～に値する
white	白い	wound	傷
who	誰	wrap	包む
whole	全体	wreck	～を難破(破壊)させる
why	なぜ	write	書く
wide	広い	wrong	誤った
wife	妻		

X 2 words

Xmas	クリスマス	X-ray	レントゲン
------	-------	-------	-------

Y 9 words

yard	ヤード	yet	まだ
year	年	you	あなた
yellow	黄色(の)	young	若い
yes	はい	your	あなたの
yesterday	昨日		

Z 5 words

zero	ゼロ	zoo	動物園
zinc	亜鉛	zoom	ズームレンズで撮影する
zone	地帯		

References

1. VOA (Voice of America) Special English Word Book
2. Globbish 1500 Basic Words (Weekly Journal "Toyo Keizai," Sept. 18, 2010)
3. Koko Nyushi Derujun Chugaku Eigo (『高校入試でる順 中学英語 TARGET 1800』 Ohbunsha, 2008.
4. Electronic Dictionary (Sharp) G4, GENIUS English Japanese Dictionary
5. FAVORITE ENGLISH-JAPANESE DICTIONARY, TOKYO SHOSEKI, 2001

Published online; February 29, 2016